

週日の説教

金 大烈 神父 2010年7月24日(土)

《毒に染まってしまった麦「毒麦」 - 最初から悪い人はいない - 》

今日の福音(マタイ 13・24 30)は、マタイ、ルカ、マルコ、ヨハネのいずれの福音史家によるものか考えずに読み始めても、すぐにマタイによる福音だと分かると思います。なぜならば、マタイはいつもこのように厳しい話をするからです。特に世の終わりについて、厳しい話をします。

では、私たちカトリック信者は、このようなマタイによる福音の厳しい話を聞いた時に、どのような姿勢をとるべきなのでしょうか。

今日の福音は、言葉通りに考えれば皆様にも理解できる話ですよね。「なぜこの世の中には、善人だけ、優しい人だけでなく、誰が見ても悪人だと思える人々がいるのか。それはきっと毒麦なのだろう。そして、とても優しく頑張っているのにいつも貧しくて悩んでいる人々は、きっと麦なのだろう。麦なのだから、いつかは実って天国に入れるのだろう。」とすぐに理解するでしょう。

しかし、私は、少し違う観点からこの福音を解釈したいと思います。私も「農夫が蒔いたのは全て麦だった。けれども麦を蒔いた人の敵が来て、麦の中に毒麦を蒔き、それが芽生えて、麦と毒麦が一緒に出てきた。」というのが、イエス様が分かりやすく伝えようとした内容だったのだと思います。しかし、神様は全ての人間を麦として創造されたはずで、敵が毒麦(悪い人間)を作ったのではないと思います。毒麦は、悪魔が「どのようにしたらきれいな麦を汚せるのか。」といろいろ考えて、実行した結果だと思います。悪魔はいろいろな技を使い、得になるという誘惑を使って、麦を毒麦にしたのでしょ。ですから、『毒麦』ではなくて、『毒に染まってしまった麦』、『毒が移ってしまった麦』と解釈すると、分かりやすくなると思います。

とにかく、神様は待ちます。本物の毒麦ならば、最後まで毒麦のまま燃やされるかもしれません。しかし、神様がこの世をずっと見守っているのに何の反応も見せないのは、待っていらっしゃるからだと思います。毒に染まった状態から解放されて、また麦に戻るのを誰よりも待っているのだと思います。

私たちは、信仰の生活をしていてもよく毒に染まります。毒麦のやり方、考え方になる時が必ずあります。ですから、もともと毒麦と麦に分けられていたのではなくて、もとはみんなきれいな麦だったのだと思います。神さまの賜物をたくさんいただいた麦だったのです。しかしいろいろなことによって、毒麦のような生き方をする人々が、だんだん出てきたのでしょ。

教会というのは、同じ考え方、同じ希望を持っている人々が、同じ方向、正しい方向を向き、自分の足りないところを認めながら、一緒に歩いて行くところです。私はそのように、何度も申しあげましたね。つまり、完璧な人、神様のみ旨に完全にかなうことばかりする人の集まりではないのです。この教会でも、毒麦の姿が見える時はあります。それは、司祭を通して見えることもあるし、信者を

通して見えることもあります。いろいろな形を通してそのように見えます。ですから、私たちは注意してこの福音を理解しなければなりません。「こういうことがあるから、あの人は悪い人だ、この人は優しい人だ。」とはっきり線引きするのは間違いです。そのように線引きしてしまうと、その人は本当にそのようになってしまいます。そして、「だからあの人にはかまわなくてもよい。」という考え方が一番危険だ、ということを意識しなければなりません。

私たちはまず、「いろいろな毒、悪魔の誘惑に負けないように導いてください。」という絶え間ない祈りをしなければなりません。そして、いろいろなことがあって倒れて転んでいる人が見えたら、「どのように手を伸ばせばその人がまた立ち上がってもとの姿になれるのか。」と考えなければなりません。それが、いわゆる神様のおっしゃった『愛の心』ではないかと思います。

皆様、私は本当に確信しています。もともと悪い人はいません。いろいろなことによって、悪くなってしまったのです。ということは、私たちも“いつでも悪くなる可能性がある”ということです。だから、救いの道に意味があるのではないのでしょうか。そういう意味で、高慢になってはいけません。いつもへりくだる気持ちで、イエス様、神様に頼る心が何よりも必要ではないかと思います。

ありがとうございました。